

「被災地忘れないで」

九大シンポ 岩手の記者が訴え

東日本大震災から1年 催。

の節目を前に、大津波へ 大津波発生のメカニクス

の備えや原発政策を考え ムについて、東京大学地

るシンポジウム「東日本 震研究所の都司嘉言准教

大震災の現場を知る」が 授は、複数の地震の連動

8日、福岡市で開かれた。 によって発生するとの考

地震と原発の専門家や弁 え方を否定。単発の地震

護士、地元紙記者の4人 でも「海底のプレートが

が、政府の震災対応や復 ずれ、境目の軟らかい部

興政策について意見を交 分が15%以上盛り上げ

わした。九州大学院比 ば、大津波が発生する」

校社会文化研究院の主 として、過去に大津波の

記録が残る地域の備えを 呼び掛けた。

政府の事故調査・検証

委員会委員を務める九州

大の吉岡斉副学長は、福

島第1原発事故処理に1

00兆円台の費用がかか

る可能性を指摘。「津

波の想定などが不十分。

事故は人災的側面が濃

厚だ」として、原発の

安全基準見直しを求め

た。

日本弁護士連合会で原 発問題を担当する秋元理

匡弁護士は、原発事故の

賠償で電気料金が値上

げされた場合、被災地

への反発が生じること

を懸念。東京電力の資

産処分などで責任を明

確にする必要性を強調

した。

遺族などの取材を続け

る岩手日報社大船渡支局

の鹿根敏和支局長は「大

事な人を失った気持ちは

1年たっても変わらな

い。子どもが希望を持て

る地域をつくるために

も、被災地を忘れないで

ほしい」と訴えた。